

詩篇90-94篇 「住まいとする主」

1A 地上の旅人 90

1B とこしえの神 1-2

2B はかない命 3-12

3B 帰ってこられる主 13-17

2A 安全な隠れ場 91

1B 疫病からの救い 1-13

2B 神の親愛 14-15

3A ナツメヤシの木の栄え 92

1B 喜び歌う者 1-11

2B 主の庭に植えられた者 12-15

4A 御稜威をまとう王 93

5A 復讐の神 94

1B 不法を行なう者 1-11

2B 主からのみ教え 12-19

3B 破滅の法廷からの救い 20-23

本文

1A 地上の旅人 90

90 第四卷 神の人モーセの祈り

詩篇第四卷の始まりです。「神の人」というすばらしい呼び名をモーセが与えられています。神の心を持っている人、神に倣っている人です。モーセはこれから、午前礼拝で学んだように、人の命のはかなさを述べます。彼は、イスラエル人がせっかくエジプトから脱出したのに、そしてシナイ山から出発したのに、彼らの不従順によって人々が死んでいくのを見ました。カデシュ・バルネアで、不信の罪を犯したイスラエル人が、荒野で四十年間さまようことになり、それはその世代が死に絶えるためでありました。こうした中で、死という現実の苛酷さを味わい、とこしえの神と共に行きながら、人の齢が短いことを述べています。その限られた人生の中で、いかに意味を持っていきることができるのか、それを見ていきたいと思えます。

1B とこしえの神 1-2

90:1 主よ。あなたは代々にわたって私たちの住まいです。90:2 山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。

主ご自身が、住まいであるという告白です。私たちは前回、主の大庭を恋い慕っているコラの子

たちの賛歌を読みました。主と共に時間を過ごすということは、そこにある永遠を体験できるということです。天地が造られる前からおられる、神に触れることであります。

2B はかない命 3-12

90:3 あなたは人をちりに帰らせて言われます。「人の子らよ、帰れ。」90:4 まことに、あなたの目には、千年も、きのうのように過ぎ去り、夜回りのひとときのようなようです。90:5 あなたが人を押し流すと、彼らは、眠りにおちます。朝、彼らは移ろう草のようです。90:6 朝は、花を咲かせているが、また移ろい、夕べには、しおれて枯れます。

人の齢は何十年もあるのですが、永遠の軸の中ではこのように、花のように移ろうものです。そして神の永遠について、興味深い表現をしています。「あなたの目には、千年も、きのうのように過ぎ去り」という言葉です。ペテロが第二の手紙で、「3:8 主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。」と言いました。永遠というのは、たった一日を千年のような内容を持たせることができます。キリストが死なれた十字架が、その一日が千年以上の、いや永遠の罪の赦しを持たせることができます。そして、千年が一日というのは、主が「わたしは、すぐに来る。」と言われてから二千年近く経っているのに、それでもまだ来ていない、けれども主にとっては二日ぐらいにしか数えておられない、ということです。永遠は、私たちに与えられた時間を超えたところにあります。

私たちが、新しく生まれるということは、永遠の中に入ると言い換えることができるでしょう。聖書の最後にある幻、新天新地が、「だれでもキリストの内にある者は、新しく造られた者です。みよ、すべてが新しくなりました。」と、救いを受けたその瞬間に感じ取ることのできるものです。永遠の御霊が与えられているので、永遠の将来を今、自分のものとすることができます。

90:7 まことに、私たちはあなたの御怒りによって消えうせ、あなたの激しい憤りにおじ惑います。90:8 あなたは私たちの不義を御前に、私たちの秘めごとを御顔の光の中に置かれます。90:9 まことに、私たちのすべての日はあなたの激しい怒りの中に沈み行き、私たちは自分の齢をひと息のように終わらせませす。90:10 私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。

齢が七十年、健やかでも八十年というのは、そうですね、三千五百年ぐらいい経っている今でも、さほど変わっていませんね。モーセ自身は百二十年生き、父祖アブラハム等も、百歳代で死にました。その前の洪水前の人々は、九百年以上生きた人たちもいました。いずれにしても、ここに「人は死んだ」という厳しい現実があり、それは、「罪の対価は死である」という神の怒りがあるのです。

90:11 だれが御怒りの力を知っているでしょう。だれがあなたの激しい怒りを知っているでしょう。その恐れにふさわしく。90:12 それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。

そうして私たちに知恵の心を得させてください。

人が永遠に生きないようにされた、神の怒りに対して、知恵をもって生きるように、正しく自分の日を数えることを教えてくださいと祈っています。何をもって知恵なのか？罪のゆえに死ぬのだということ、知ることで、人にある罪が人の寿命を短くしたのだ、ということを知ることで、これが知恵であり、そのために神が罪のいけにえを用意されて、その罪を赦すための備えを与えられました。罪が赦され、その傷がいやされ、長く生きるため、とこしえに生きるためです。

そして午前中に話したように、罪赦された私たちが、主に対して生きることも知恵であります。与えられている一日が、主からの報いを天において受ける、その貴重な時間であることを知りながら生きることです。

3B 帰ってこられる主 13-17

90:13 帰って来てください。主よ。いつまでこのようなのですか。あなたのしもべらを、あわれんでください。90:14 どうか、朝には、あなたの恵みで私たちを満ち足らせ、私たちのすべての日に、喜び歌い、楽しむようにしてください。90:15 あなたが私たちを悩まされた日々と、私たちがわざわざいに会った年々に応じて、私たちを楽しませてください。90:16 あなたのみわざをあなたのしもべらに、あなたの威光を彼らの子らに見せてください。

モーセは今、荒野で死に絶える古い世代を見ながら、新しい世代が育ちつつある中で、主に対して憐れみを求めています。けれどもこれは、私たちに当てはめることができるでしょう。朝とは、新しいキリストにある命が与えられることです。そして、神の恵みで満たされたら、その後の日々をずっと喜び歌うことができるようにしてください、ということです。そして以前犯した罪による災いに報いる形で、その恵みで楽しむことができるようにしてください、ということです。そして、新しくされたこの命に、あなたの威光、栄光を見せてくださいと祈ることができます。

90:17 私たちの神、主のご慈愛が私たちの上にありますように。そして、私たちの手のわざを確かなものにしてください。どうか、私たちの手のわざを確かなものにしてください。

ここ「ご慈愛(ヘブル語は、「ノアム」)」は、英語では「beauty」と訳されています。魅力、優しさ、気前良さ、いろいろ訳せると思います。この限られた命、残された日々を送る中で、主のご慈愛があるようにと祈っています。その麗しさの中に生きている時に、私たちのすることが確かなものとなります。確実に実が結ばれ、いつまでも残るもの、永遠の意味を持たせるものになるということです。

2A 安全な隠れ場 91

91 篇ですが、誰が書いたのかの説明がありません。けれども 90 篇の続きのような内容になっています。疫病やえやみ、また狩人の罠から守られるという内容です。荒野の旅の時に、モーセと

イスラエルの民はこれらの災いと隣り合わせでした。主がおられれば、このような恐怖から守られるという確信と安心を歌っています。

1B 疫病からの救い 1-13

91:1 いと高き方の隠れ場に住む者は、全能者の陰に宿る。91:2 私は主に申し上げよう。「わが避け所、わがとりで、私の信頼するわが神。」と。91:3 主は狩人のわなから、恐ろしい疫病から、あなたを救い出されるからである。

90 篇では、主が自分の住まいであると言って、そこにある永遠性を思い巡らせていました。ここ91 篇では、主が私の隠れ場であると言って、地上で生かされている苛酷な環境の中で守られると信仰告白しています。

2011 年の原発事故で、エルサレムにいる兄弟がメールで送ってきてくれた詩篇でした。放射能の恐怖があっても、全能者である主が自分の住まいとなっているので、守られるということです。イスラエルもいつも、テロリズムという恐怖と隣り合わせで生きています。けれども、世界のどこに行っても、キリストの教会は同じ証しを、持っています。キリスト者は守りが与えられ、安心していられているという証しです。

91:4 主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実は、大盾であり、とりである。91:5 あなたは夜の恐怖も恐れず、昼に飛び来る矢も恐れぬ。91:6 また、暗やみに歩き回る疫病も、真昼に荒らす滅びをも。91:7 千人が、あなたのかたわらに、万人が、あなたの右手に倒れても、それはあなたには、近づかない。91:8 あなたはただ、それを目にし、悪者への報いを見るだけである。

私たちは、今日の社会で恐怖との戦いを強いられています。私たちは、恐れるべきものを正しく恐れる知識と知恵が必要です。無謀運転をすれば交通事故になるということは知っておくべきです。けれども、恐れというものは恐ろしいもので、私たちを支配し、心を蝕みます。安全でなければいけない、健康でなければいけないと駆り立てて、自分で恐れを作り出していきます。けれども、そうした恐れから、主の守りがあれば救い出されます。

91:9 それはあなたが私の避け所である主を、いと高き方を、あなたの住まいとしたからである。91:10 わざわいは、あなたにふりかからず、えやみも、あなたの天幕に近づかない。

すばらしいです、大事なことは私たちがどこを自分の住まいとしているかです。90 篇にもありました、主を住まいとすることです。

91:11 まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにさ

れる。91:12 彼らは、その手で、あなたをささえ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにする。91:13 あなたは、獅子とコブラとを踏みつけ、若獅子と蛇とを踏みにじろう。

ここにある御使いの守りの約束は、悪魔が荒野におられたイエス様を誘惑した時に使った言葉です。神殿の頂まで連れて行き、そこから落ちてみなさいと誘った時にこの言葉を使いました。けれども、イエス様は「主を試してはならない、とも書いている。」と言われて対抗されました。全能の神の御子でさえ、その力を試すためには敢えて用いられなかったのです。

マルコ 16 章には、福音宣教に伴う約束をイエス様がされていて、毒を飲んでも害を受けない、という言葉があります。「それならば、毒を飲んでみよう」と言って、実際に毒を飲んだという話を聞いています。その後になんとなったかは聞いていませんが、これは、「主を試す」ことに他なりません。しかし、福音を宣べ伝える時、または主の命令に従っていく時、危険が出てきても、主が必ず守ってくださるという原則があります。もし主が、その働きを終えたいと思われるなら、そういうことを許されるでしょう、けれどもそうでなければ害を受けないのです。

2B 神の親愛 14-15

91:14 彼がわたしを愛しているから、わたしは彼を助け出そう。彼がわたしの名を知っているから、わたしは彼を高く上げよう。91:15 彼が、わたしを呼び求めれば、わたしは、彼に答えよう。わたしは苦しみのときに彼とともにいて、彼を救い彼に誉れを与えよう。91:16 わたしは、彼を長いのちで満ち足らせ、わたしの救いを彼に見せよう。

ここに、詩篇の著者と主との間にある、親密な交わりがあります。隠れ場の中で、この著者は何をしているのでしょうか？一つは、「愛して」います。ここでの愛するは、すがり付いて離れないという意味だそうです。ちょうど、ルツが姑ナオミに、自分の家に戻りなさいと言われても、すがりついて離れなかったように、何と少しでもあなたといっしょにいますと決めて、離れないのです。そして、二つ目は、「わたしの名を知っている」ことであります。神の名前は、神の本質を表しています。それを人格的に、親密に知っているということです。そのように知っていれば、強い者が来てもなおのこと、高い所に引き上げてくださいます。そして三つ目、「呼び求める」ことです。自分で事を運んで、いろいろしてしまわないでしょうか？それは、自分に力がある、知恵があると思っている高ぶりです。すべてを主のところを持っていき、御名を呼び求めるのです。

そうすれば、苦しみの時に主が共にいてくださいます。つまり、苦しみが無いことを保証しません。苦しみの時に主が共におられます。そして、究極的には救ってくださるのです。そして長い命で満たされるとありますが、これは新約においては、永遠の命、死者の復活で保証されています。

3A ナツメヤシの木の栄え 92

92 賛歌。安息日のための歌

安息日に歌われる賛歌です。主にあって休む時、私たちが何をすればよいかを教えてください。そして、92 篇は 90-91 篇と同じテーマがあります。主を住まいとすること、です。主を住まいとするとは、何をすることなのかを教えてください。

1B 喜び歌う者 1-11

92:1 主に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。92:2 朝に、あなたの恵みを、夜ごとに、あなたの真実を言い表わすことは。92:3 十弦の琴や六弦の琴、それに立琴によるたえなる調べに合わせて。92:4 主よ。あなたは、あなたのなされたことで、私を喜ばせてくださいましたから、私は、あなたの御手のわざを、喜び歌います。92:5 主よ。あなたのみわざはなんと大きいことでしょう。あなたの御計らいは、いとも深いのです。

私たちは、主を住まいとする時に、初めにすることは「感謝する」ことです。感謝することによって、私たちは主がすべてのことを支配しておられ、それは良い意図をもって行っていることを認めることとなります。主の御心に従うことにつながります。次に、「ほめ歌をうたう」ことです。主が良くしてくださっていること、すばらしいことをしてくださっていることを感謝するだけでなく、賛美するのです。しかも、ここで指導されているようにそれを歌にして行います。私たちが主の名で集まる時に、祈り、感謝して、賛美すると良いですね。

感謝して、賛美するだけでなく、「恵みと真実を言い表」します。心の中で思っているだけでは、不十分です。それを口にして、言葉にして言い表すのです。したがって、証しというのは重要な役割を果たします。私たちの教会では、聖書の教えが強調されているので、なかなか礼拝の時に証しをしていただくことはできていませんが、それでもやったことは何度もあります。けれども礼拝の後の交わりにおいて、神の恵みと真実を証しすることによって、主を喜ばせることができます。

92:6 まぬけ者は知らず、愚か者にはこれがわかりません。92:7 悪者どもが青草のようにもえいでようと、不法を行なう者どもがみな栄えようと、それは彼らが永遠に滅ぼされるためです。92:8 しかし主よ。あなたはとこしえに、いと高き所におられます。92:9 おお、主よ。今、あなたの敵が、今、あなたの敵が滅びます。不法を行なう者どもがみな、散らされるのです。92:10 しかし、あなたは私の角を野牛の角のように高く上げ、私に新しい油をそそがれました。92:11 私の目は私を待ち伏せている者どもを見下し、私の耳は私に立ち向かう悪人どもの悲鳴を聞きます。

私たちは絶えず、私たちの内にある主にある喜びを奪い取ろうとする力に取り囲まれます。ユダヤ人にとって、それは物理的な敵がおり、彼らがいつも自分たちを襲おうとしていましたが、私たちには、いろいろな形で主にある喜び、主を感謝し、賛美し、言い伝える力を削ぎ落そうとする勢力の下にいます。しかし、私たちはキリストにあって勝利します。これらの力は主によって倒れていきます。

2B 主の庭に植えられた者 12-15

92:12 正しい者は、なつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます。92:13 彼らは、主の家に植えられ、私たちの神の大庭で栄えます。92:14 彼らは年老いてもなお、実を実らせ、みずみずしく、おい茂っていきましょう。92:15 こうして彼らは、主の正しいことを告げましょう。主は、わが岩。主には不正がありません。

私たちが主に感謝し、賛美し、神の恵みと賛美を言い伝えることを行っている時、主の住まいの中にいる時に、私たちが多くの実を結ばせ、大きく育つことを教えています。それを、まず「なつめやしの木」と言っていますが、これは中東地域では最も代表的な果実です。イスラエルの中でも、荒野に入っていくと、ナツメヤシの栽培園を見ることができます。樹高は 7-8 メートルで、良質な実がなるまで 60 年の歳月を経ないといけません。けれども、実は 15000 個、重さにして 150 キロの実が結ばれます。



中東という過酷な気候と土地において、それでも主はなおのこと、実を結ばせることのできる力と深みを持っておられるということです。私たちが、このような方に選ばれ、そして神のイスラエルという木に接ぎ木されたのです。ここで「主の庭に植えられる」とありますね。これまでの普通の生活の延長で信仰生活はできません。全く新しい、入植の生活です。したがって、不便はあるし、ぎこちないことはあるし、けれども何もなかった荒野のようなところに、みずみずしい木が生えるようにご自分の園を造ってくださるのです。その畑は、聖霊を持っている私たち信者のことです。

4A 御稜威をまとう王 93

93:1 主は、王であられ、みいつをまとしておられます。主はまとしておられます。力を身に帯びておられます。まことに、世界は堅く建てられ、揺らぐことはありません。93:2 あなたの御座は、いにしえから堅く立ち、あなたは、とこしえからおられます。

「主は、王であられる」という宣言から始まります。93 篇から 100 篇までが、「王の即位の詩篇」と呼ばれます。神ご自身が王となられ、その国の臣民が王をほめたたえている詩篇です。私たちは、「礼拝」という言葉を使いますが、それはまさに、王に対する拝礼です。私たちは民主主義国におり、なかなかこの感覚が分かりません。と言っても、立憲君主制なんですね。天皇陛下がおられますが、けれども憲法で象徴として定められており、政治に対する権限を持っておられません。だからなかなか、王を抱くということが分からないのです。

けれども私たちは、キリスト者として明確に「神が王である」とする領域、神の国の幻を信仰の中で保っていなければいけません。イエス様は、「御国が来ますように」と祈りなさいと命じられま

した。そして、「神の国とその義を第一に求めなさい。」と命じられました。使徒パウロは、「御国の民の生活をしてください。(ピリピ 1:27 別訳)」とお願いしました。

以前、私が、「教会において、私たちには人間的な意味での自由は全くありません。」とネット上に書いたら、他のクリスチャンから反発がありました。誤解は解いていただくことはできたのですが、私たちには自由はありません。キリストが頭であられ、私たちはその命令に聞き従うのであり、自分の権利をすべて明け渡し、すべての所有を神のものとして差し出した者たちです。しかし、そこにはとてつもない自由があるのです。キリストにある自由です。キリストにある神の祝福を、神の相続者として受け継ぐことができているのです。キリストの内にある権限が、神の恵みによって私たちにも与えられています。これはちょうど、「キリストの使節」ともパウロが言いましたが、各国の全権大使と似ています。国の全権を任せられた使節であり、自分の思ったことを行なう権利はないのですが、小さな敷地の小さな建物で働いている大使は、大きな国の全権をその派遣された国で行使することができます。

だから私たちは、この詩篇によって神の国の王たる主ご自身を知らないといけないのです。初めに、「御稜威をまとっておられる」とあります。御稜威とは、天皇にしか使われない言葉です。それはご威光であるし、また力を表しています。神が栄光をもって、力をもって支配しておられ、敵に対して勝利する風格を持っておられるということです。

そして「世界が堅く立てられている」と書いてあります。この世には様々な人間の王、指導者がいますが、すべてを統べ治められているのは私たちの王、神ご自身です。この支配は堅固であり、天と地が減んでもなおのこと残る強さを持っています。それから、「いにしえからおられて、とこしえまで立つ」とあります。

私たちの王は永遠なる方であり、この時空を超えておられます。ですから、神の国はこの地上の国々に主権をもって関わっていますが、これらの国々を超越しています。今、イスラム国など、イスラムの過激派はカリフ制と彼らが呼んでいるものために戦っていますが、そのような葛藤は私たちキリスト者にはないのです。イエス様はピラトに対して、こう言われました。「ヨハネ 18:36 わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」むしろ、ピラトに与えられた十字架につける権限は神から来ているとイエス様は言われました。この世の権威を超越しているのですが、この世の権威を支配しているのです。だから、イエス様はローマの主権と力を表していた十字架に、父なる神から来ているものとして従われたのです。私たちは世の権威に従うことによって、神がその権威をも支配していることを証しするのです。ですから、古からおられて、とこしえまでおられる御座におります。

93:3 主よ。川は、声をあげました。川は、叫び声をあげました。川は、とどろく声をあげています。

93:4 大水のとどろきにまさり、海の力強い波にもまさって、いと高き所にいます主は、力強くあられます。

これは、主が、ヨシヤアたちがヨルダン川と渡河する時にその川を堰き止められたこと、それから、モーセたちが紅海を渡る時に、海を分けてくださったことを取り上げています。そこに、神が確かに王であることが証しされていました。

93:5 あなたのあかしは、まことに確かです。聖なることがあなたの家にはふさわしいのです。主よ、いつまでも。

主が御稜威をまとおられること、力をもって世界を堅く立てておられること、とこしえに生きておられること、これらの中心部には、「神の聖」があるということです。主が聖なる方であるから、この被造物を超越しており、威光もあり、力もあり、そして永遠の方であるということです。

5A 復讐の神 94

このように、主なる神が王であるという前提で、94 篇を読みますと、御国の中に立ちはだかる悪者の存在、人間の支配者の横暴を読むことができます。

1B 不法を行なう者 1-11

94:1 復讐の神、主よ。復讐の神よ。光を放ってください。94:2 地をさばく方よ。立ち上がってください。高ぶる者に報復してください。94:3 主よ。悪者どもはいつまで、いつまで、悪者どもは、勝ち誇るのでしょうか。94:4 彼らは放言し、横柄に語り、不法を行なう者はみな自慢します。94:5 主よ。彼らはあなたの民を打ち砕き、あなたのものである民を悩まします。94:6 彼らは、やもめや在留異国人を殺し、みなしごたちを打ち殺します。

この詩篇の背景は、イスラエルの民を虐げている悪者がいるということです。その悪者の中に、実は自国の指導者がいるのです。8 節に、「民のうちのまぬけ者ども」とあります。そして、「おきてにしたがって悪をたくらむ破滅の法廷」と 20 節にあります。敵国がイスラエルの民を懲らしめているならまだしも、イスラエルとユダの国の王やその他の指導者が悪者とのように、彼らを虐げ、悩ましているのです。事実、ソロモン王政以降のイスラエルとユダには、そのような王が出てきました。

霊的な指導者でありながら、霊的な家族に対して虐げを行なうということは、残念ながらキリスト教会に起こっています。これは、私たちの霊を本当に潰します。自分の弱った霊を引き上げるために、神に用いられ、仕えるのが指導者であるはずなのに、その反対を行なうのです。このような悪い指導者に対して、神が正しい裁きを行なわれることをこの詩篇は教えています。

これを言い換えると、「王なる神の国の領域に、人に過ぎない王が勝手気ままに横暴を働く」とい

うことに他なりません。神とキリストの支配しかあってはならないところに、人が自分の支配権を確保しようとしています。いわば、一つの国の中に国を造ろうとしているのです。これを神は許しません。公正な裁きを行なってください。

94:7 こうして彼らは言っています。「主は見ることはない。ヤコブの神は気づかない。」94:8 気づけ。民のうちのみめけ者ども。愚か者ども。おまえらは、いつになったら、わかるのか。94:9 耳を植えつけられた方が、お聞きにならないだろうか。目を造られた方が、ご覧にならないだろうか。94:10 国々を戒める方が、お責めにならないだろうか。人に知識を教えるその方が。94:11 主は、人の思い計ることがいかにむなしいかを、知っておられる。

教会における不正、また教会でなくとも、その他のところで行われている上に立つ者たちの不正に対して、この詩篇の著者のように、「主に裁いていただく」という姿勢が必要です。そのような者たちは、「主は見ることはない」という前提があるから、そのような不正を行なうことができるのですが、そんなことはない、お前たちは愚か者だ、確かにあなたたちを見ているのだ、と反論しています。ご自分の造られた者の計画と行動を知っていないなんて考えることほど、愚かなことはありません。そして主は必ず、その計画を空しいものにしていただきます。

2B 主からのみ教え 12-19

94:12 主よ。なんと幸いなことでしょう。あなたに、戒められ、あなたのみおしえを教えられる、その人は。94:13 わざわいの日に、あなたがその人に平安を賜わるからです。その間に、悪者のためには穴が掘られます。94:14 まことに、主は、ご自分の民を見放さず、ご自分のものである民を、お見捨てになりません。94:15 さばきは再び義に戻り、心の直ぐな人はみな、これに従うでしょう。

著者は、裁きを主に委ねました。その委ねられた自分を、「なんと幸いなことでしょう。」と喜んでいきます。彼は、そうした悪い者どもの事柄を主に任せ、そして自分自身には、神の御教えによって戒めを受けられることを喜んでいきます。そうです、主の戒めを聞くことによって、彼は悪い指導者の中にいながら、直接、神の御国の支配下に入ることができているのです。

そして、主の教えを受ける時の幸せを具体的に述べています。「平和を受ける」ということです。それは状況や環境に拠らない平和です。災いの日であっても得ることのできる平和です。そして、「悪者は自ら落ちていく」ということを悟れることです。自分の手から離れたのですが、神の手から離れていません。そして、主がご自分の民は見放さないこと、そして裁きの中に再び神の義が戻ってきて、それで心の直ぐな人はそれに従える日が来ます。人の支配者の悪が取り除かれ、神の国とその義が確立します。

94:16 だれが、私のために、悪を行なう者に向かって立ち上がるのでしょうか。だれが、私のために、不法を行なう者に向かって堅く立つのでしょうか。94:17 もしも主が私の助けでなかったなら、

私のたましいはただちに沈黙のうちに住んだことでしょう。94:18 もしも私が、「私の足はよろけています。」と言ったとすれば、主よ、あなたの恵みが私をささえてくださいますように。94:19 私のうちで、思い煩いが増すときに、あなたの慰めが、私のたましいを喜ばしてくださいますように。

ここにおいて、この著者の主への信頼が書かれています。このような悪を目の前にしている時に、指導者が悪を行なっている時に、誰がそれに対して立ち向かってくださるのか？他に人がいない、しかし私には主がおられる、という信仰です。そして自分を支えてくれる要素を話しています。一つが、「神の恵み」です。神の恵みがあるから、自分は立っていることができます。もう一つは、「神の慰め」です。その慰めがあるから、思い煩いがあっても魂を喜ばすことができます。

3B 破滅の法廷からの救い 20-23

94:20 おきてにしたがって悪をたくらむ破滅の法廷が、あなたを仲間に加えるでしょうか。94:21 彼らは、正しい者のいのちを求めて共に集まり、罪に定めて、罪を犯さない人の血を流します。94:22 しかし主は、わがとりでとなり、わが神は、わが避け所の岩となりました。94:23 主は彼らの不義をその身に返し、彼らの悪のゆえに、彼らを滅ぼされます。われらの神、主が、彼らを滅ぼされます。

これは裁判の席です。そして正しい者を血で流すことをしています。悪者が裁かれず、むしろ無実な者を罪に定めます。このような究極の不条理に対して、それを目の前にしても主が避け所となっておられます。ちょうどダビデが、こう言いましたね。「私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯はあふれています。(23:5)」敵の前で、食事を整えて自分を客に迎えてくださる神がおられます。イエス様は、蛇のように聡く、鳩のように優しくなりなさいと言われました。それはすなわち、不条理がはびこっている中においても、その悪に非常に警戒しながら、なおのこと優しく振る舞える約束です。

ですから、最後の節も激しい復讐の言葉ですが、それはむしろ「主が裁いてくださる」という強い確信の中で、そのことを自分では思わず、平安と慰めと喜びを得ることができている状態でありませぬ。したがって、神を王とするその国が、人の虐げによって妨げられることはありません。神は私たちの心を支配して、それでご自分の国を広げてくださいます。

これから聖餐にあずかりますが、イエスが弟子たちと共に最後の食事をされた時、それは敵を目前にしての食事でした。不正な裁判をこれからイエス様が受けます。しかし、イエス様は楽しみと喜びの印である食事を弟子たちと共にすることができました。しかも、そこには裏切り者イスカリオテのユダもいます。キリストがご自身の裂かれる肉、そしてご自身が流される血、この肉と血によって私たちにも、平安が与えられ、喜びと楽しみとの交わりが与えられます。(ルカ 22:14-20 を読む) 神の国が来る時、それはキリストが再臨されて、そこでぶどう酒を飲む時です。私たちが食べるパン、飲むぶどう酒は、キリストのなされたことを思うだけでなく、この日も思ってお与えられています。